

# 大阪における MICE推進方針

平成29年3月

大阪MICE推進委員会準備会

## < 目 次 >

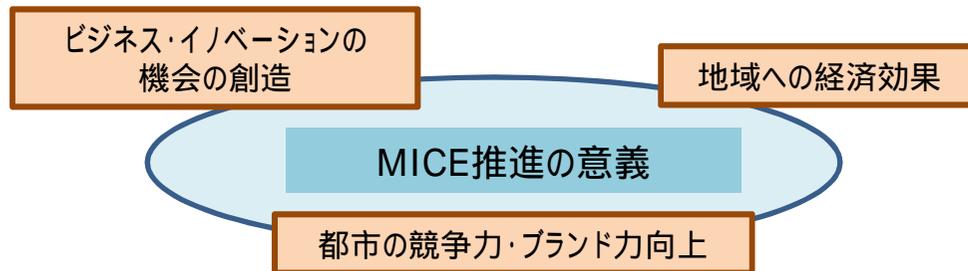
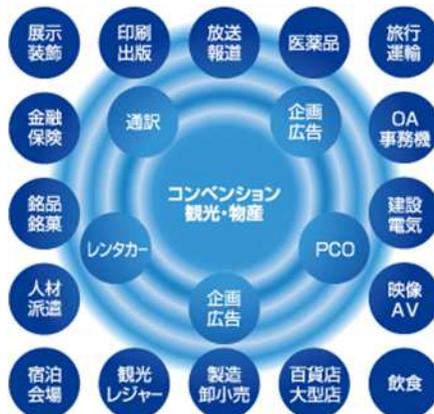
大阪におけるMICE推進方針の目的	.....	P 1
大阪におけるMICE推進方針の位置づけ	.....	P 2
大阪におけるMICEの現状と課題	.....	P 3
大阪におけるMICE推進の基本的な考え方	.....	P 1 0
MICE推進の達成目標	.....	P 1 1
戦略的MICE誘致の推進	.....	P 1 2
主要MICE拠点の役割分担・機能強化	.....	P 1 5
MICEクラスターの連携	.....	P 1 9
MICE関係想定スケジュール	.....	P 2 0

# 大阪におけるMICE推進方針の目的

- ・MICEは、交流人口増だけでなくMICEに参加する国際人材や企業・学会等とのネットワーク構築により開催地のビジネス・イノベーションの機会を創造するものである。また、MICE参加者の消費額・宿泊数は一般観光客のそれよりも多いため地域への経済効果が高く、かつ開催都市の国際的認知度やブランド力向上に資するものである。
- ・さらに、MICE開催に関連する産業は多岐に渡っており、施設事業者、会議・展示会運営事業者はもとより、宿泊業、旅行業、運輸業、飲食業、その他地域の経済活動を支える多様な企業との関連が高い。
- ・そのため、世界的にMICE誘致が経済活性化の有効な手法として注目されてきており、誘致競争は年々激化してきている。
- ・大阪における国際会議開催件数は増加の傾向にあるものの、都市経済規模やインフラの整備状況を鑑みると世界的・国内的にも少ない状況となっている（国際会議開催件数（平成27年（2015年））23件 世界115位 国内4位（ICCA（国際会議協会）統計より））。
- ・その要因として、大阪には、近年の国際会議や展示会の開催態様の変化に対応した、会議場・展示場などが一体的に整備・運営されるMICE施設が不足していることと併せて、オール大阪のMICE推進の方向性や体制がないことが考えられる。
- ・また、夢洲における統合型リゾート（IR）など国際観光拠点の形成や国際博覧会誘致の動きもあり、世界的に大阪が注目されMICE機能が強化されるこの機を逃さず対応することが重要である。
- ・そのため、今後、府・市・経済団体・大阪観光局等が一体となって行うMICE推進体制の構築や誘致活動の方向性を定めるとともに、大阪のMICE拠点の役割分担・機能強化の方向性を定め、大阪の経済活性化や都市魅力の向上を図る。

対象期間：平成29年度(2017年度)から平成37年度（2025年度）

多岐に渡るMICE関連産業



MICE（マイス）とは、企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称

### 【国での取り組み】

- ・平成21年（2009年）に観光庁が「MICE推進アクションプラン」を策定した。
- ・平成26年度（2014年度）～平成27年度（2015年度）に、国が日本のMICE誘致競争を牽引できる実力ある都市の育成を狙う「グローバルMICE都市」の一つとして、大阪府・市が選定された。
- ・平成28年（2016年）の「日本再興戦略の鍵となる施策」の一つに「観光立国」が掲げられ、「MICE誘致の促進」を進めることとされた。
- ・「観光ビジョン実現プログラム」（平成28年（2016年）策定）において、観光立国実現に向けた主要な柱の一つとして「MICE誘致の促進」が位置付けられた。

### 【大阪都市魅力創造戦略2020】

#### （戦略目標）

内外から人、モノ、投資等を呼び込む「強い大阪」の実現

世界に存在感を示す「大阪」の実現

#### （10の目指すべき都市像）

多様な人材が集う**観光・MICE都市**

多彩な人が訪れ、集い、交流する活気あふれる都市を目指します。

（KPI） 主指標 国際会議開催件数 340件（H32）

副指標 ・MICE外国人参加者数  
・インセンティブツアーの誘致・開催件数  
・インテックス大阪における展示会延べ使用面積

大阪におけるMICE推進方針

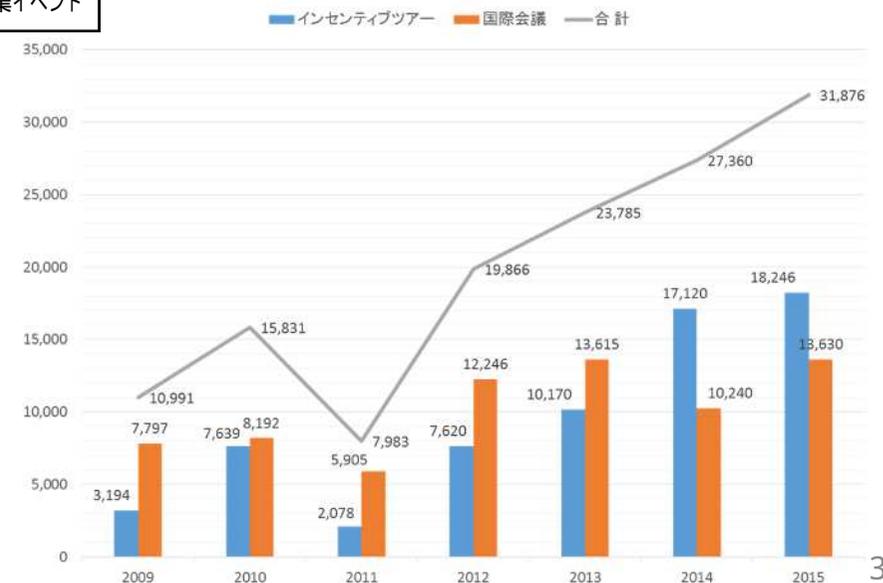
# 大阪におけるMICEの現状と課題 (1) 大阪におけるMICE施設と開催状況

・インテックス大阪は国内3位の規模を誇る大規模展示会・見本市の会場として、大阪府立国際会議場は大阪を代表する国際会議場として大阪経済の発展や国際化を牽引してきた。その他様々な規模・機能を持つMICE施設を府内各所に有し、国内外の展示会・見本市や国際会議等を開催している。しかし、世界的な潮流となっている大規模MICE開催に対応可能な一定規模の展示場・会議場が一体的に整備・運営されているMICE施設は不足している。

## 大阪の主なMICE施設

地域	施設名	開業年	最大収容人数 (会議室)	会議室数	展示面積	用途
中之島	大阪府立国際会議場	2000年	2,754名	27室	2,600㎡	国際・国内会議、企業会議、コンサート
上本町	大阪国際交流センター	1987年	1,006名	12室	無し	国際・国内会議、企業会議、コンサート研修
梅田	コングレコンベンションセンター	2013年	1,750名	12室	約1,700㎡	企業会議・企業展示、国際・国内会議
南港	インテックス大阪	1985年	300名	25室	70,078㎡	大規模展示会、企業インセンティブ
南港	ATCホール	1994年	300名	10室	7,000㎡	展示会、企業イベント、一般イベント
堺筋本町	マイドームおおさか	1987年	210名	7室	4,843㎡	中小規模展示会、商談会
大阪城	大阪城ホール	1983年	13,000名	3室	3,500㎡	コンサート、企業イベント

## 大阪におけるMICE参加外客数の推移



## 大阪における国際会議開催状況(平成27年(2015年))

No	会場名	所在地	開催件数	外国人参加者数	国内参加者数	参加者総数	参加者数/件
1	大阪大学	吹田市 豊中市	70	1,190	10,537	11,727	168
2	大阪府立国際会議場	大阪市北区	34	7,614	69,217	76,831	2,260
3	ナレッジキャピタル(グランフロント大阪)	大阪市北区	26	1,391	40,212	41,603	1,600
4	大阪市立大学	大阪市住吉区	21	375	4,472	4,847	231
5	関西大学	吹田市	15	183	4,245	4,428	295

(JNTO作成2015年国際会議統計より抽出)

# 大阪におけるMICEの現状と課題 (2) 他都市のMICE施設状況

・国内には、東京・横浜・名古屋・京都・神戸・福岡をはじめ各都市にMICE施設が設置されているとともに、多くの施設において新設・拡張が予定されている。

国内の主なMICE施設

都市名	主要MICE施設	開業年	会場収容	展示面積	拡張計画等
東京	東京国際フォーラム	1997年	5,012人 (固定席)	5,000㎡	-
	東京ビッグサイト	1996年	1,000人 (固定席)	95,420㎡ (仮設含)	約2万㎡拡張予定
横浜	パシフィコ横浜	1991年	5,002人 (固定席)	20,000㎡	約7.6千㎡拡張予定
千葉	幕張メッセ	1989年	1,664人 (可動)	72,000㎡	-
京都	国立京都国際会館	1966年	1,840人 (固定席)	3,000㎡	約2千㎡拡張予定
	みやこメッセ	1996年	120人 (可動)	9,650㎡	隣接MICE施設整備
神戸	神戸国際会議場	1981年	692人 (固定席)	-	改築予定
	神戸国際展示場	1981年	4,000人 (一部可動)	13,600㎡	-
名古屋	名古屋国際会議場	1990年	3,012人 (固定席)	1,920㎡	修繕
	ポートメッセなごや (名古屋市国際展示場)	1973年	750人 (可動)	33,946㎡	約4万㎡拡張予定
福岡	福岡国際会議場	2003年	3,000人 (固定席)	1,320㎡	-
	マリンメッセ福岡	1995年	250名	10,500㎡	約5千㎡拡張予定
	福岡国際センター	1981年	198人 (可動)	5,052㎡	-
	福岡サンパレス	1981年	2,316人 (固定席)	-	-

各都市では今後のMICE需要を予測して施設の新設、拡張が始まっている

- 仙台 (仙台国際センターの拡張・3千㎡)
- 高崎、長崎、熊本 (MICE複合施設の新設)
- 愛知 (新たな国際展示場の建設・6万㎡)
- 奈良 (2000名収容規模の国際会議場の建設)
- 姫路 (新たな国際会議場の建設)
- 沖縄 (MICE複合施設の新設・4万㎡、1万人収容規模)

都道府県別国際会議開催件数 (JNTO統計)

NO	都道府県	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
1	東京都	510	484	517	537	565	583
2	福岡県	269	268	301	312	411	450
3	大阪府	152	135	281	314	253	242
4	京都府	160	145	202	179	211	230
5	宮城県	74	42	85	81	85	225
6	神奈川県	180	174	196	234	208	193
7	愛知県	139	125	144	154	179	187
8	兵庫県	121	105	112	110	100	133
9	北海道	97	81	68	98	107	114
10	広島県	41	37	53	64	67	74

国内地域別展示会開催件数 平成26年度(2014)年度  
(展示会データベース(ピーオーピー)による)

NO.	都道府県	開催件数
1	東京	313
2	大阪	50
3	千葉	29
4	神奈川	26
5	愛知	12
6	北九州	8
7	兵庫	5
8	福岡	4
9	新潟	3
10	静岡	3

## 大阪におけるMICEの現状と課題 (3) 海外都市のMICE施設状況

・海外では会議場・展示場が一体的に整備・運営され、周辺にホテル、飲食・物販、エンターテインメント等が近接して立地するいわゆるオールインワン型で、かつ大規模な施設が多い。

・特に、シンガポールにおいては、公民がそれぞれMICE施設を建設・運営し、統合型リゾート（IR）施設との相乗効果を図り役割分担及び棲み分けを行いながら様々なMICEを受け入れ、シンガポール全体のMICEひいては経済活性化につなげている。

### 大規模なMICE施設の状況

国名	施設名	開業年	展示面積	最大会議収容人数	会議室数	その他
韓国	COEX	1979年	36,000㎡	1,800人	48室	第2COEX建設
	KINTEX	2005年	100,000㎡	1,600人	39室	周辺インフラ整備
	BEXCO	2001年	46,000㎡	4,000人	49室	第2,第3BEXCO建設
台湾	台北世界貿易中心 南港展覽館	2008年	45,000㎡	500人	8室	国際会議場、ホテル建設
香港	アジア・ワールド EXPO	2005年	70,000㎡	13,500人	7室	
中国	北京新中国国際 展覽中心（新館）	2008年	106,000㎡	500人程度	20室以上	
	上海新国際博覧 中心	2001年	200,000㎡	200人程度	30室以上	
	中国博覧会会展 総合体（上海）	2015年	500,000㎡	3,000人	60室以上	
タイ	IMPACT	2000年	140,000㎡	11,000人	30室	
オーストラ リア	ICC SYDNEY	2016年	35,000㎡	8,000人	70室	
	Melbourne Convention & Exhibition Center	2008年	30,000㎡	15,000人	52室	約4万㎡拡張予定

### シンガポールの主要MICE施設

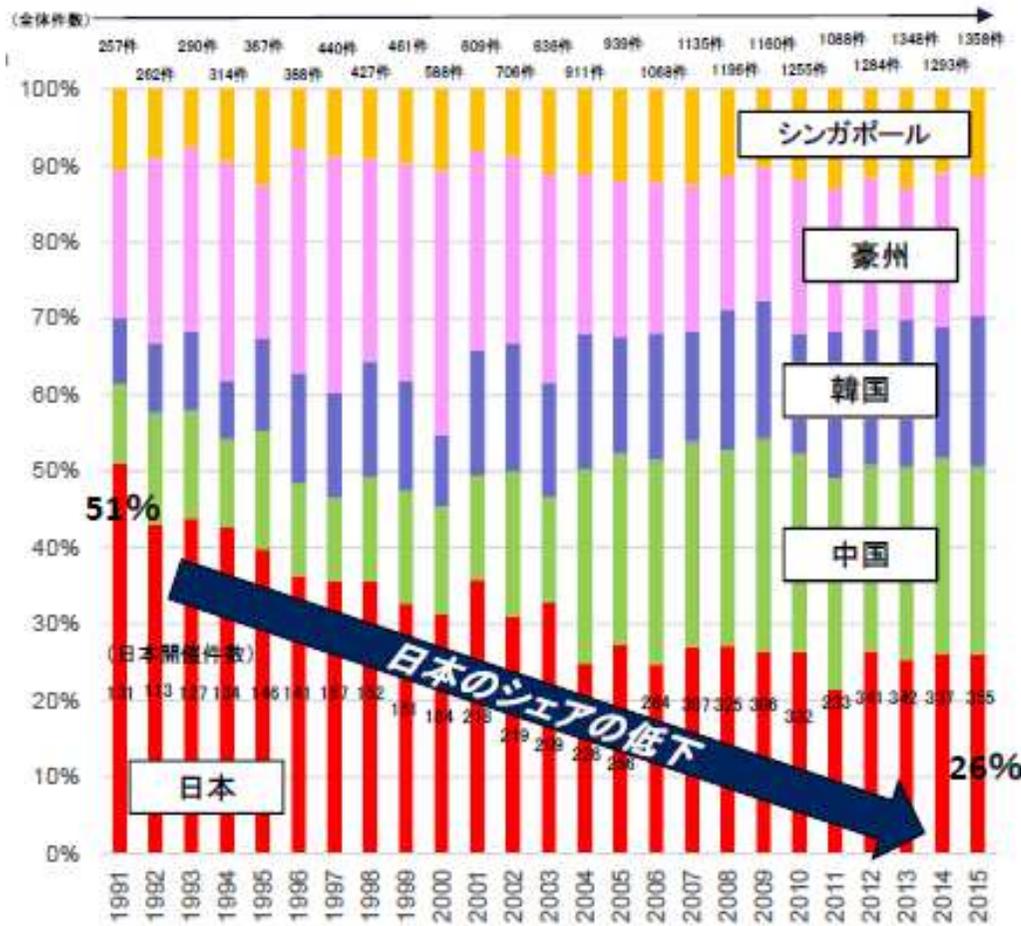
施設名	設置 運営	開業年	展示面積	最大規模 会議収容	会議室	主なMICE市場
サンテック・ シンガポール	民設 民営	1995年	24,000㎡	12,000人	36室	学会会議・政府系会議 IMF, Sibos等
シンガポールEXPO	公設 民営	1999年	100,000㎡	8,000人	42室	大規模展示会 年間700件展示イベント
マリーナベイ・サンズ (統合型リゾート)	民設 民営	2010年	32,000㎡	11,000人	217室	企業系MICE 中小規模展示、営業会議 インセンティブ

MICE先進都市シンガポールの強さの要因の一つは、統合型リゾート（IR）事業者と公共が役割分担をしていることにある。

# 大阪におけるMICEの現状と課題 (4) 世界の中での日本・大阪の位置

- ・日本で開催された国際会議件数は対前年18件増の355件（世界順位：7位、アジア・大洋州・中東地域順位：1位）となっている。しかし、アジア主要5か国（日本、中国、韓国、シンガポール、豪州）の総開催件数に占める日本のシェアは一貫して低下傾向にある（ICCA（国際会議協会）統計より）。
- ・大阪の国際会議開催件数は国内4位（世界順位：115位、アジア・大洋州・中東地域順位：25位）にとどまっている。

アジア・大洋州地域の主要国の国際会議開催件数に対する日本のシェア推移（1991～2015）



（観光庁資料より）

アジア・大洋州・中東地域の都市別国際会議ランキング

2015年 アジア・大洋州・ 中東地域順位	2015年 世界順位	都市	2015年 開催件数	2014年 開催件数	2013年 開催件数
1位	7位	シンガポール	156件	142件	175件
2位	13位	ソウル	117件	99件	125件
3位	15位	香港	112件	98件	89件
4位	16位	バンコク	103件	73件	93件
5位	19位	北京	95件	104件	105件
6位	22位	台北	90件	92件	78件
7位	25位	シドニー	86件	82件	93件
8位	28位	東京	80件	90件	79件
9位	32位	クアラルンプール	71件	79件	68件
10位	46位	ドバイ	56件	56件	37件
11位	47位	上海	55件	73件	72件
12位	49位	メルボルン	54件	61件	52件
13位	57位	京都	45件	47件	43件
14位	64位	マニラ	41件	22件	28件
		ニューデリー	41件	35件	35件
16位	68位	パリ	40件	38件	55件
17位	73位	アブダビ	35件	22件	23件
18位	77位	釜山	34件	35件	34件
		済州	34件	41件	45件
20位	85位	福岡	30件	15件	12件
21位	93位	オークランド	28件	19件	19件
		プリズベン	28件	37件	25件
		マカオ	28件	23件	16件
24位	100位	杭州	27件	17件	17件
25位	115位	大阪	23件	10件	20件
26位	117位	横浜	22件	18件	17件
30位	139位	札幌	18件	19件	13件
39位	182位	名古屋	14件	11件	15件
42位	191位	神戸	13件	15件	18件
		沖縄	13件	16件	9件

（ICCA（国際会議協会）統計より作成）

# 大阪におけるMICEの現状と課題 (5 - 1) 世界におけるMICE需要の動向

・世界における国際会議の需要動向について、国際会議開催件数は10年間で36%増加している（ICCA（国際会議協会）統計より）。

・また、展示会についても、世界における開催件数は増加の傾向にあり、販売面積は4年間で13%増加している。特に、アジア太平洋地域では4年間で30%以上増加している。また、展示会については、供給が需要を創出する傾向が見られ、大規模展示場を整備すれば展示会開催件数の増加が見込まれる。

世界の国際会議開催件数の推移（2006～2015）



(観光庁報道発表資料より)

展示会販売面積の推移（2010～2014）

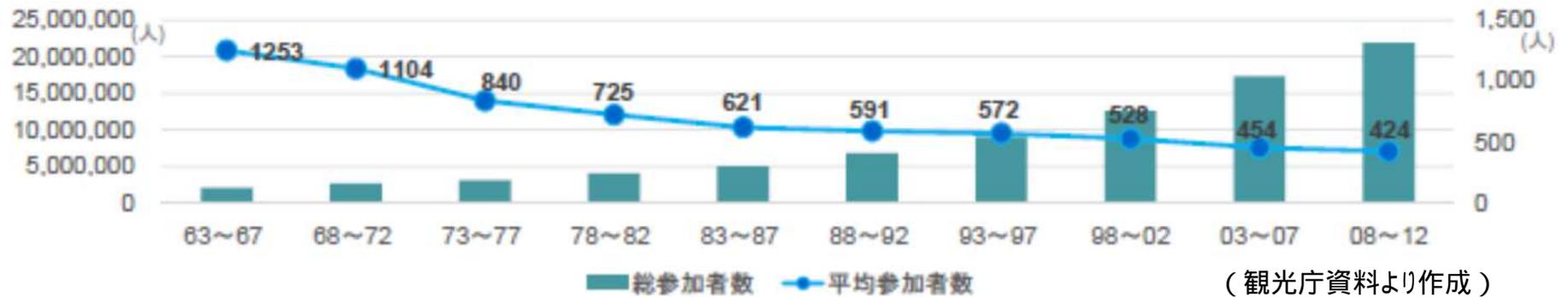


(UFI（国際見本市連盟）資料より)

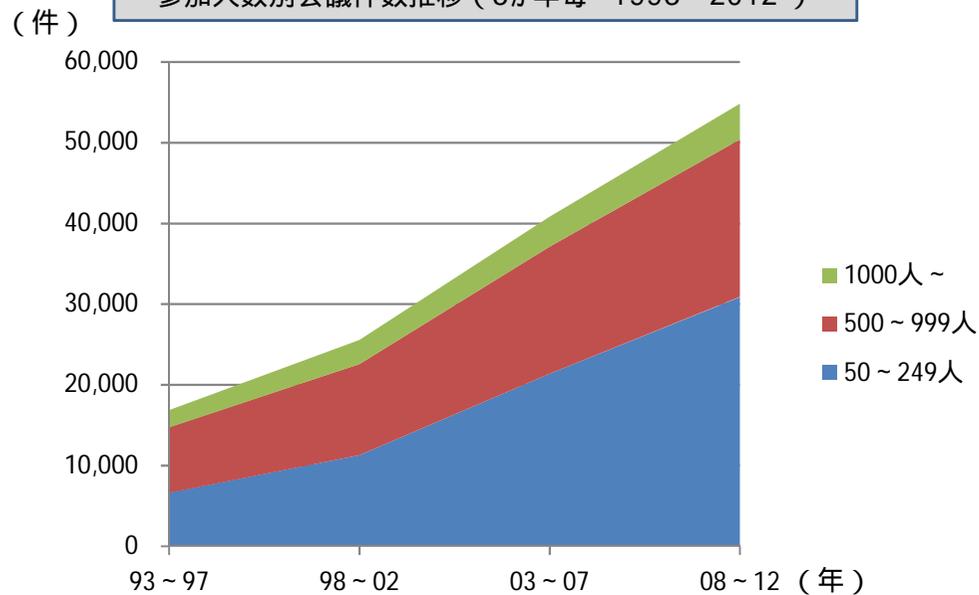
# 大阪におけるMICEの現状と課題 ( 5 - 2 ) 世界におけるMICE需要の動向

・国際会議の開催件数は年々増加傾向にある。参加人数別でみると、250人未満の会議が増加傾向にある。

参加者数総数 ( 5か年毎・1963～2012 )



参加人数別会議件数推移 ( 5か年毎・1993～2012 )



## 大阪におけるMICEの現状と課題 (6) 大阪MICEを取り巻く環境まとめ

- ・大阪のMICEを取り巻く状況としては、オールインワン型施設の不足や、オール大阪のMICE推進の方向性や体制の不足、ターゲットの絞り込み不足等が弱みとしてあげられるが、国際空港から都心部や主要MICE施設への交通アクセスなど充実した都市基盤、先端産業や国内有数の大学・研究機関の集積などが強みとなっている。
- ・夢洲における統合型リゾート（IR）など国際観光拠点の形成や国際博覧会誘致の動きもあり、世界的に大阪が注目されMICE機能が強化されるこの機を逃さず対応することにより、大阪が世界有数のMICE都市をめざすことが可能となる。

### 【SWOT分析】

<p><b>強み (Strength)</b></p> <p>先端産業の集積                  多くの学術機関・企業等の会議主催者の存在                  充実したMICE施設（西日本最大規模の会議場と展示会場）と豊富な開催実績                  陸・海・空の交通ネットワーク                  国内外と繋がり、交通便利性を誇る関西国際空港                  充実した宿泊施設                  観光地としての実績（特にアジアから）                  京都・奈良など関西の観光拠点、ハブ機能                  豊かな観光・商業施設、食文化等                  アフターコンベンションの充実                  APEC、SIBOSや世界陸上など多くの国際イベントの開催実績                  大阪観光局によるワンストップサービス</p>	<p><b>機会 (Opportunity)</b></p> <p>海外からのインバウンドの増大                  世界的に国際会議は増加傾向                  東京オリンピックによる代替需要                  国によるMICE施策の推進</p>
<p><b>弱み (Weakness)</b></p> <p>会議場と展示場が離れている                  展示場の老朽化                  会議場の高稼働率による機会損失                  海外における都市の知名度の低さ                  MICE専門の人材・人員が不足                  各エリアでの受け入れ体制が不十分</p>	<p><b>脅威 (Threat)</b></p> <p>アジア諸国におけるMICE機能の強化                  他国の国主導による施設整備、低価格賃料                  MICE誘致について国内外の都市間競争激化                  国内他都市における施設拡充の動き</p>